

The 141st GREEN Seminar



固体界面における 非平衡性の観察と制御

Chair: 松田 翔一 (GREEN)

小林 成 助教

(東京大学 大学院理学系研究科 化学専攻)

全固体電池をはじめとする固体デバイスの高性能化に向けて、それを構成する物質・材料の合成過程やデバイス動作下で反応の舞台となる固相界面の現象を理解し制御することは普遍的な課題である。

本講演では、全固体電池界面をモデル化した薄膜Li電池のオペランド計測技術を駆使し、非平衡界面現象を見出した講演者らによる研究成果を紹介する。さらに、近年大きな潮流となっているAI・ロボティクスによる自律実験システムを活用し推進してきた、全固体電池材料の物質探索の高速化事例を示す。これらオペランド計測と自律実験の融合は、単なる動作観察や合成条件の最適化を超え、非平衡界面反応の自律制御に伴う新たな学理創出をもたらす。

本講演では、その具体的な目標と今後の展望を議論したい。

開催場所: NIMS 千現地区

研究本館管理棟 1階 第1会議室

開催日時: 2026年9月11日 (金) 10:00-11:00

言語: 日本語

連絡先: MATSUDA.Shoichi@nims.go.jp